

保育実習への不安状況に関する調査

村田 務, 岡本美智子^{*1}, 小林義郎^{*2}, 海野阿育^{*3}

^{*1} 聖心女子専門学校, ^{*2} 清和女子短期大学, ^{*3} 鶴見大学短期大学部

I はじめに

保育実習は、幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得するために必要な要件である。幼稚園教諭免許では、幼稚園での現場実習が約4週間が求められる(5単位, 実習の事前事後での学習を含む)。保育士資格では、保育所、保育所以外の児童福祉施設、及び関連施設での現場実習が合計30日間が求められる(5単位, 実習の事前事後での学習も含む)。

学生にとって、保育実習は、保育者としての自己発見の場であり、また、理論と実践の関係を習得する場でもある。後者においては、実際に子どもに接する体験を通して、養成機関での教科全体の知識、技能の理解を基礎として、総合的に実践する応用力を養う。保育実習は保育者養成課程において、重要な役割を担っている教科目の一つである。

一方、学生たちは、実習前・実習中・実習後の各過程において、さまざまな不安やストレスを抱えている^{2), 3)}。時には、これらの不安やストレスがきっかけとなって、精神的或いは身体的な不調を起し、保育実習の実施を困難にしたり、中止せざるを得ないこともある。有意義な保育実習を体験するためには、こうした不安とストレスにうまく対応することが重要である。

本研究では、指定保育士養成施設に在学する学生を対象に、保育実習前における不安の状況を明らかにし、実習への不安を解消するための一資料を得ることを目的とする。なお、保育実習前における不安の背景や要因については別に報告する予定である。

II 方法

1 調査の対象及び実施方法

2002年7月に、指定保育士養成施設4校に在学する1年次学生に対して無記名自記式質問紙調査を実施した。教科の授業時間内に配布し記入後、その場で回収した。A校261名、B校246名、C校63名、D校58名に配布し回収率は100%であった(授業欠席者を除く)。

2 不安とその背景要因

不安とは、一般に、個人の尊厳や存在基盤が脅かされたときなど、内的葛藤に起因してあらわれる、対象のない漠然とした不快感や恐れ of 感情を意味する。従って、特定の対象に対する恐れ of 感情をさす「恐怖」(例えば、蛇や高所への恐れ)とは区別される。また、「心臓がどきどきする」「息が苦しくなる」「手足が震えたりする」などの自律神経系の過剰な反応を伴う。

不安が出現する背景として、これまでに、心理学的理論、行動理論、実存理論、生物学的理論などが考えられている。本報告では、保育実習が学生にとって未知の体験であることに注目して、「内的葛藤に起因」という視点から、自己の状態と達成をめざす目標値との「ギャップ(格差)」に不安の背景を求めた。さらに、このギャップを増減する媒介変数の存在を仮定した。

具体的には、①自己の状態として「保育職への周囲の支持」「人間関係」「情緒的支援者保有」「ストレス症状」、②達成を目指す目標値として「保育技術への不安」「子どもや保育実習へのイメージ」、③ギャップを増減する媒介変数として、「保育職への志気」「無力体験」「問題対処行動」を設定した。

3 質問紙調査の項目

質問紙調査の項目は、①性別や住居形態などの対象者の属性について5項目、②保育職へのやりがいや社会的貢献度などの保育者への志気について10項目、③「子どもが可愛い」や「子どもと遊ぶのが好き」などの子どもや保育実習へのイメージについて10項目、④ピアノ伴奏や保護者への接し方などの保育技術について10項目、⑤友人や家族などから保育職に対して支持があるかどうかについて8項目、⑥友人や家族との人間関係について8項目、⑦「落ち着き安心できる人」や「気持ちを敏感に察してくれる人」などの情緒的支援者保有について10項目、⑧「自分にはどうすることもできなかった体験」「不愉快なときにどうすることもできなかった」などのこれまでにあった無力体験について4項目、⑨問題に直面したとき、「信頼できる人に相談する」「明るい面を見つけようとする」などの問題対処行動。⑩「頭がすっきりしない」「学習にやる気がでない」などのストレス症状について30項目、保育実習が「楽しみだ」「不安だ」、或いは「早く実習に行きたい」などの保育実習に対する気持ちについて5項目、であった。

Ⅲ 結果と考察

1 対象者の属性

1) 学校別

A校 261名（全対象者の41.6%）、B校 246名（同39.2%）、C校 63名（同10.0%）、D校 58名（同9.2%）、合計 628名であった。

2) 男女別

男子学生は、A校 13名（A校の5.0%）、B校 18名（B校の7.3%）のみで、全体では31名4.9%であった。女子学生は、597名95.1%であった。

3) アルバイトの実施状況

アルバイト実施について回答のあった者は553名（全体の88.1%）で、そのうち66.2%、366名（全体の58.3%）がアルバイトをしていた。アルバイトをしていない人は187名（同29.8%）、不明75名（同11.9%）であった。アルバイト実施者の週当たりの実施時間は、平均13.9時間（SD：6.8時間）、1～9時間24.3%、10～14時間29.2%、15～19時間26.5%、20時間以上19.9%であった。

4) 住居形態

対象者の住まいは、自宅544名（全体の86.6%）、アパート56名（同8.9%）、寮20名（同3.2%）、その他6名（同1.0%）、不明2名（同0.3%）であった。

2 単純集計

1) 保育実習に対する「気持ち」に関する項目（図1）

「保育実習が楽しみ」と言う気持ちが「強くある」学生は全体の33.7%、「少しある」は40.2%であった。両者を合わせて約7割以上が楽しみにしている。「保育実習に早く行きたい」という気持ちは、「強くある」が18.6%、「少しある」が33.1%であった。「楽しみ」よりは少ないが合わせて5割を超える。

一方、「保育実習が不安である」と言う気持ちを、59.6%が「強く」もち、34.7%が「少し」感じている。合わせると9割を超える。反対に、「保育実習がうまくいく」と言う気持ちが「強くある」学生は6.0%、「少しある」20.1%と少ない。保育実習への不安と自信の連関性を示唆される数値である。6割近い学生が「保育実習が不安である」と強く感じている状況を有りのままに受け止め、どう改善していくかが、保育実習の実施に当たっての大きな課題となる。

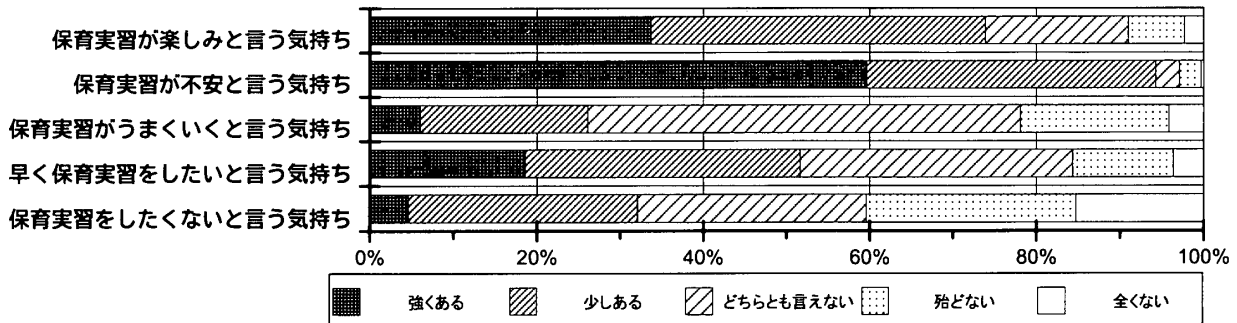


図1 保育実習への「気持ち」

2) 保育職への志気に関する項目 (図2)

以下の項目に「よくある」と回答した割合は、以下の通りである。「保育職にやりがいを感じる」50.4%、「保育職が社会に役立っている」71.8%、「保育の仕事をするのが楽しみ」56.3%、「保育職に就こうと思う」64.8%であった。保育職への意義とやりがいを持ち、その仕事に楽しさを感じながら、将来、保育職で働きたいと思っている状況がうかがえる。但し、保育士になることを目的とする施設に入学しながらも、「時々ある」も含め、「将来、保育職に就こうと思う」が83.1%であることは、評価が分かれるところである(約2割近くが保育職に就くことを決めかねている)。

保育の授業については、「学ぶのが楽しい」39.3%、「学習に負担を感じる」8.9%、「勉強が煩わしい」4.8%、「学習に伸びがない」9.9%、「授業に満足している」10.7%であった。保育の学習を楽しんでいる学生が多く(「時々ある」も含めると84.5%)、負担や煩わしいと感じたり、伸び悩む学生も少ない。一方で、保育の授業に満足している学生が約1割にとどまっていることが問題点として指摘できる。

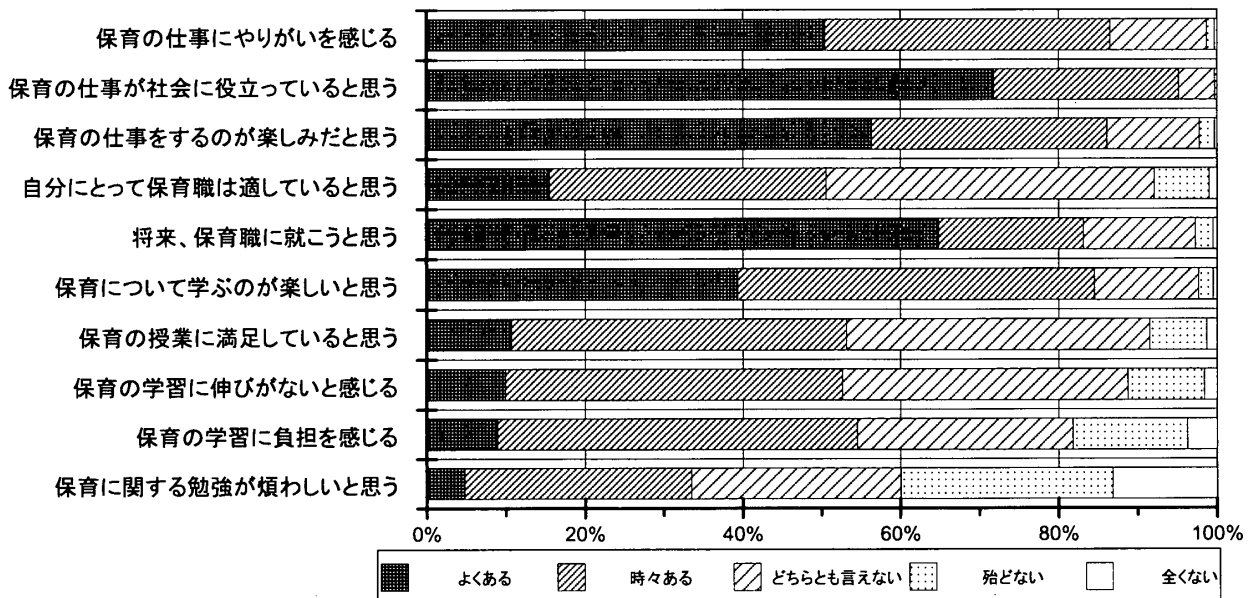


図2 保育職への志気

3) 子どもや保育実習に対するイメージに関する項目（図3）

以下の項目に「強く思う」と回答した割合は、以下の通りである。「子どもが可愛いと思う」93.8%、「子どもと遊ぶのが好き」87.1%、「子どもと接するのが楽しい」89.3%、「子どもの世話をするのが好き」77.8%、「子どもの笑顔が好き」95.1%と、殆どの項目で9割以上が「強く思う」と、子どもや保育に対して良いイメージ（プラスイメージ）を持っている学生が多い。

一方、「言うことを聞いてくれないかもしれない」20.9%、「遊んでくれないかもしれない」10.0%、「指導に反発するかもしれない」15.3%、「子どもの反応が少ないかもしれない」17.2%、「子どもの考えが分からないかもしれない」21.8%と、保育実習において、約1～2割の学生が子どもの反応に「強く」不安を感じていたり、子どもへの対応に自信がもてない状況であった（「少し思う」を含めると約6～8割）。特に、「言うことを聞いてくれないかもしれない」「考えが分からないかもしれない」などの「子どもを理解できるかどうか」、或い「できているかどうか」に高い割合で不安があった。

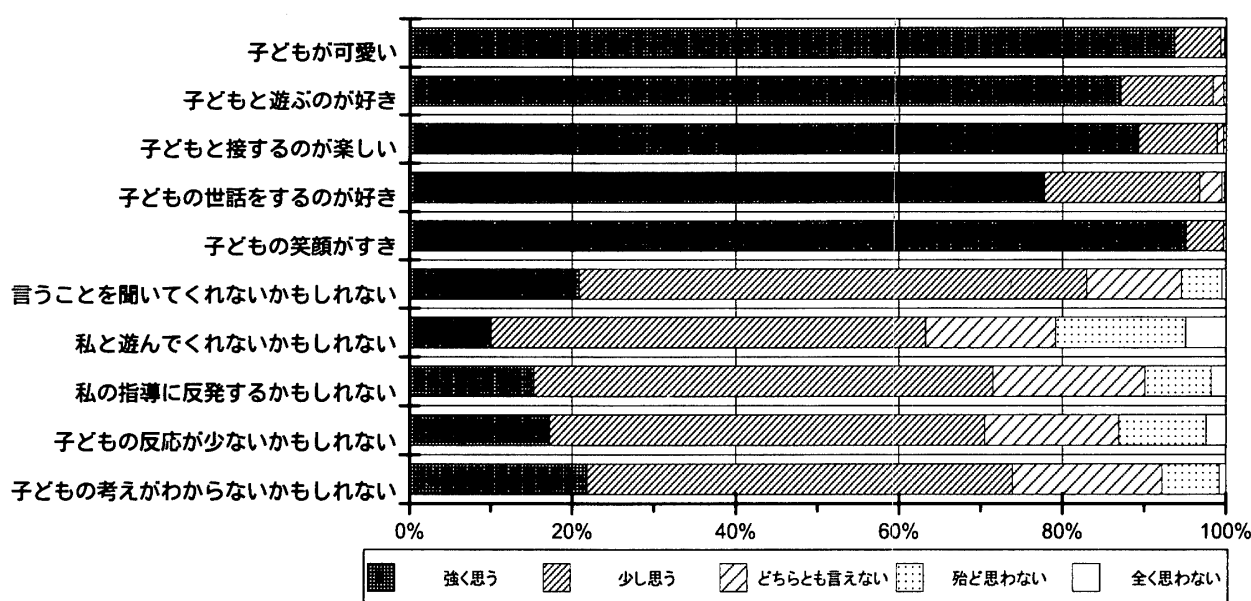


図3 子どもや保育実習へのイメージ

4) 保育技術に関する項目（図4）

ここでは、保育実習で予想される学生の実習内容について、不安に思っている事柄を回答してもらった。高い割合で「強くある」と回答があった項目は、「教材づくりや指導計画作成」65.4%、「実習日誌を書くこと」60.4%、「ピアノや造形の技術」54.7%、「保護者との接し方」53.8%、「実習先の先生との接し方」52.6%で半数を超えた。

一方、「子どもと一緒に遊ぶこと」は8.5%と低いものの、他の項目でも、「手遊びや紙芝居」40.6%、「子供へのけんかの対応」40.0%、「みんなの前で話すこと」30.4%、「一人ひとりの子どもへの接し方」30.3%と、約3～4割の学生が「強い」不安を感じている。

特に、保護者や実習先の先生との人間関係、実習日誌や指導計画の作成など、学生がこれまでに体験していない「未知の事柄」に強い不安を感じている様子が伺える。

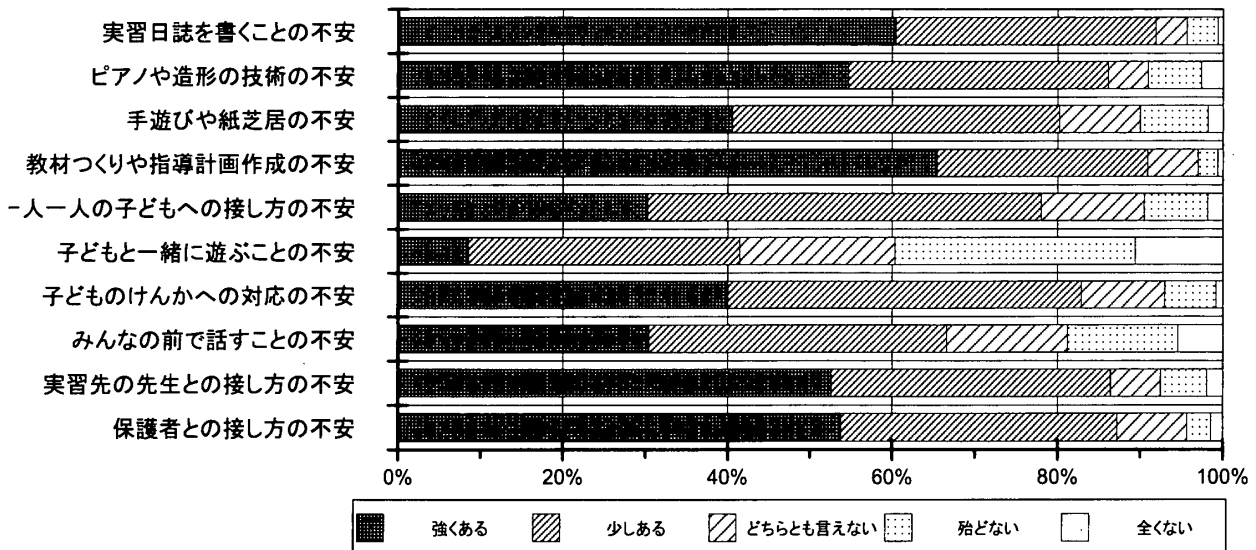


図4 保育技術に関する不安

5) 保育職に対する支持に関する項目 (図5)

学生が保育職に就くことに対する周囲からの支持は、情緒的支援ネットワークとして、保育職への志気を高めたり、保育実習への不安を軽減するために作用すると思われる。周囲からの支持や応援が「強くある」項目として、親75.5%、友人63.0%、その他の家族48.3%があった。一方、「学校(養成校)の教職員からの支持や応援」が「殆どない」と学生の22.8%が回答している状況から、今後、養成校側の情緒的支援のあり方について検討すべきものとする。なお、「バイト先の人からの支持や応援」は、バイトをしている学生に限定すると、「強くある」が41.5%と極端に低い割合ではない。

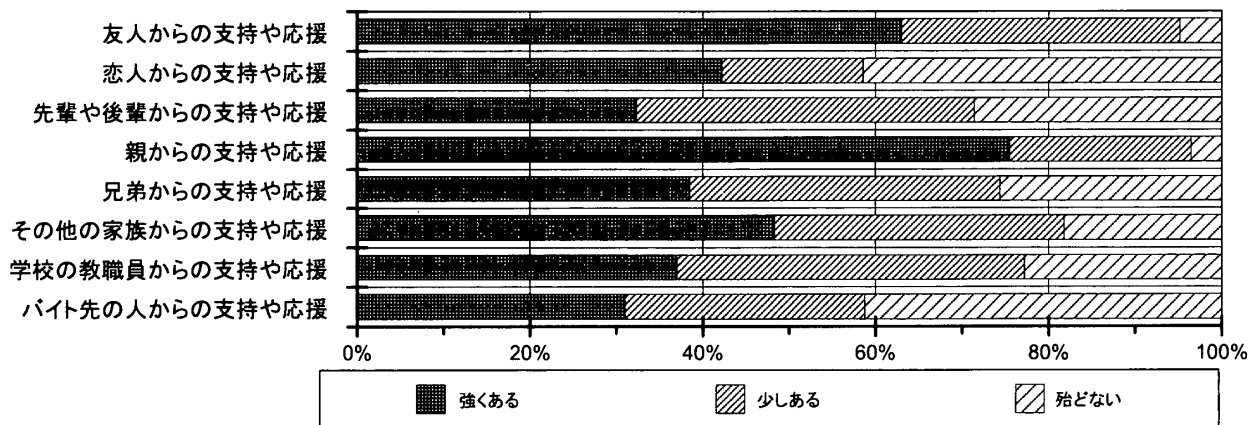


図5 保育職に対する支持

6) 人間関係での苛立ち事に関する項目 (図6)

周囲との人間関係で苛立つことが「よくある」割合が高い項目は、親38.9%、兄弟30.5%、学校の教職員22.0%であった。「恋人との苛立ち事」は、「恋人の有無」を調査していないので、ここでは取り上げない。身近な存在であるからこそ、気兼ねなく「苛立つ」ことも考えられる。

しかし、保育者を育て保育実習を支援していく立場の養成校教職員との間で、「苛立ち事」を感じている学生が2割以上もいる状況は問題であるといえる。この状況を、前項の「学校(養成校)の教職員からの支

持や応援」が「殆どない」と約2割の学生が感じている状況と照らし合わせてみると、今後の保育実習への支援やサポート、指導のあり方、学生への対応について検討すべきであろう。

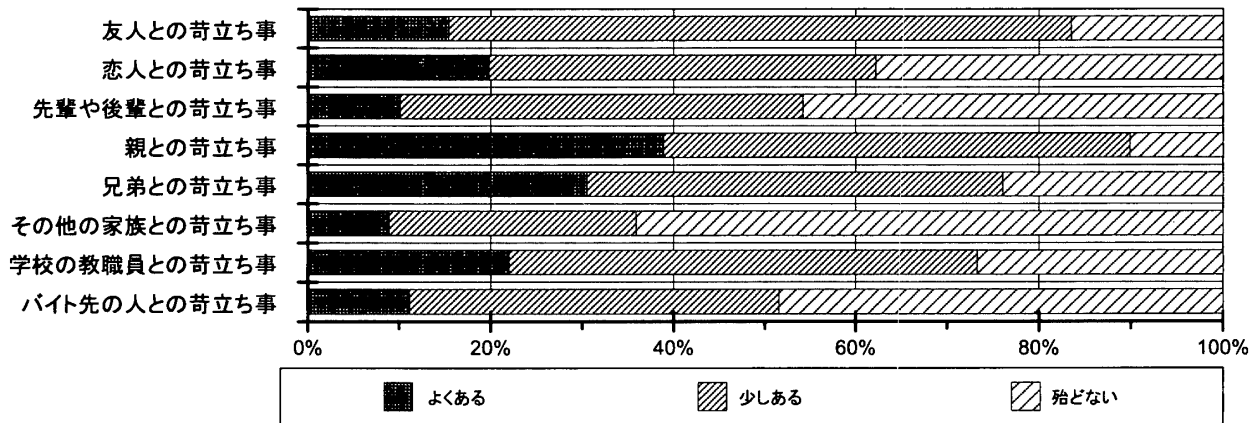


図6 周囲との人間関係

7) 情緒的支援者保有に関する項目 (図7)

情緒的支援者について、「たくさんいる」と回答した割合が高い項目は「会うと心が落ち着き安心できる人」42.2%、「お互いの考えや将来のことを話し合える人」38.6%であった。各項目とも「たくさんいる」が2～4割、「少しいる」も含めると9割以上となる。「評価し認めてくれる人」はやや少なく80.4%となる。10項目、全てに「たくさんいる」又は「少しいる」と回答した割合は65.4%であった。7項目以下でも7.7%と、情緒的な支援を受けられる者が多くいる。不安の解消にも効果的に働く可能性がある。

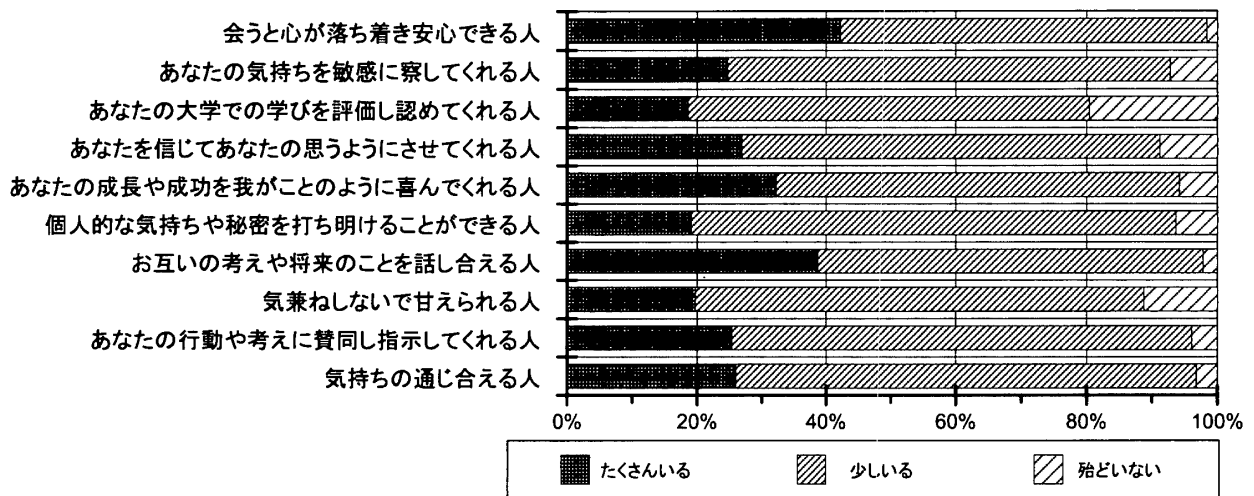


図7 情緒的支援者

8) 無力体験に関する項目 (図8)

「難しい問題に直面したが、それなりに解決できた」ことが「何度もあった」と問題解決への自信につながる回答が28.5%、「時々あった」も含めると9割を超える。一方で、「何もすることができなかった」「どうすることもできない事態に出くわした」「どんなにがんばってもやりたいことができなかった」ことが「何度もあった」割合が、それぞれ、9.7%、14.0%、10.0%と少なからずいる。比較的的良好な状態とは言えるが、こうした無力体験は、日頃のストレス感受性や「不安の意識化」に関連することも考えられるので、

一人ひとりの学生に応じた指導が必要と思われる（特に無力体験を多く持つ学生）。

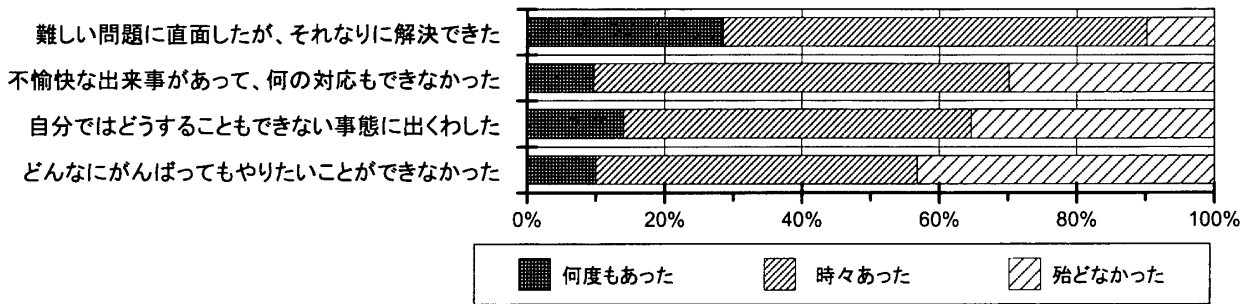


図8 無力体験

9) 積極的問題対処行動に関する項目（図9）

不安やストレスがあったとき、積極的問題対処行動はその状態を軽減させ、反対に消極的問題対処行動は悪化させる。各行動傾向について5項目を設定し対処方法を探った。

積極的問題対処行動として、「何度もあった」が「信頼できる人に相談する」で57.8%、「人に話して気持ちを分かってもらう」で54.6%と2つの項目での割合が高い。「時々あった」も含めると、どの項目でも適切な対処行動をとっている学生が8割を超える。全体として望ましい傾向と言える。

一方、消極的問題対処行動においては、「何度もあった」が「恋人や家族に愛情や優しさを求める」の45.8%を除いて2～3割とやや少ない。しかし、「時々あった」も含めると、どの項目でも6～8割になり課題となる。積極的問題対処行動を推進すると言うより、消極的問題対処行動を減らす方向性が欲しい。

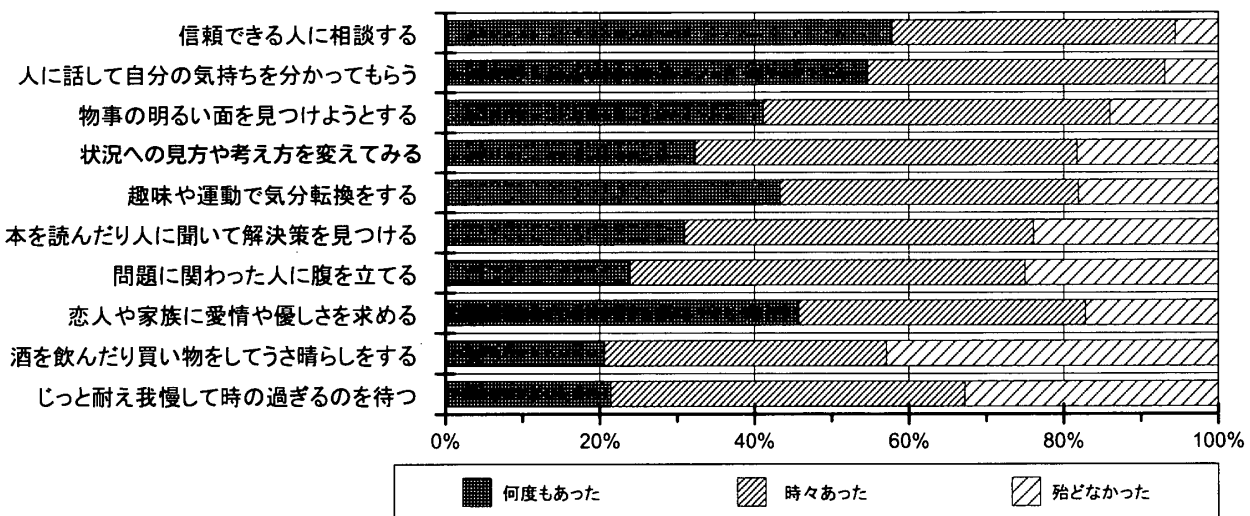


図9 問題対処行動

10) ストレス症状に関する項目

ストレス症状に関する項目は、桂戴作の「ストレス症状チェックリスト」に基づいて作成した⁴⁾。評価基準は、各項目について「何度もあった」を1点として加算し、6～10点で「軽いストレス状態」、11～20点で「ストレス状態」、21点以上を「かなりのストレス状態」と評価する。

各項目を加算した得点は、5点以下が49.5%、6-10点の「軽いストレス状態」は32.1%、11-20点の「ストレス状態」は17.7%、21点以上の「かなりのストレス状態」は0.7%であった。約2割がストレス状態であると言える。この割合は現職の保育者への調査における46%⁵⁾と比べると低い割合であるが、「軽いストレス状態」を加えると5割を超えることを考えると検討すべき課題であろう。

3 学校別で見た保育実習への楽しみや不安の気持ち（図10，図11，図12）

A校は都市近郊の大規模校，B校は都市部の大規模校で，ともに男女共学である。C校は都市近郊の小規模校，D校は都市部の小規模校で，ともに女子だけが学ぶ。

保育実習が「楽しみである」や「うまくいく」，或いは実習を「したい」と言う気持ちに，学校別での関連性は見られなかった。

一方，保育実習が「不安である」，保育実習を「したくない」と言う気持ちには，学校別での関連性が見られた。B校とD校は都市部の学校であるが，他の学校と比較して，保育実習に不安があり，実習したくないと言う気持ちを「強く」持っている学生の割合が高い。

なお，実習が「不安である」と実習を「したくない」の両項目は，相関関係にあり，保育実習に不安である気持ちが強い学生ほど，実習をしたくないと言う気持ちがある（ $r=.327$ ， $p<.01$ ）。

表1に，保育実習への楽しみや不安に関する項目間の相関関係を示す。特に，「実習が楽しみである」と「実習がしたい」の両項目の間に高い相関がある（ $r=.704$ ， $p<.01$ ）。

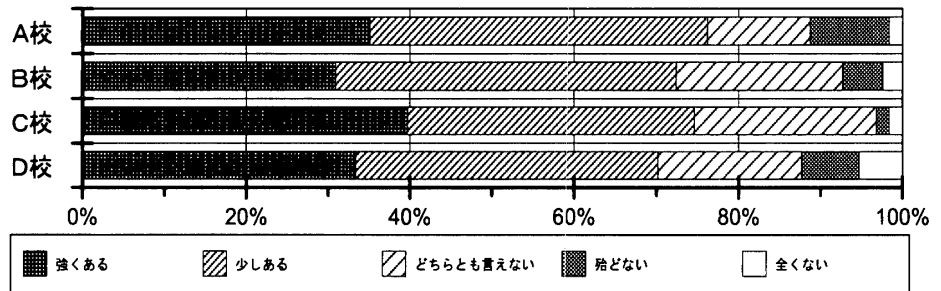


図10 保育実習が楽しみ

N.S.

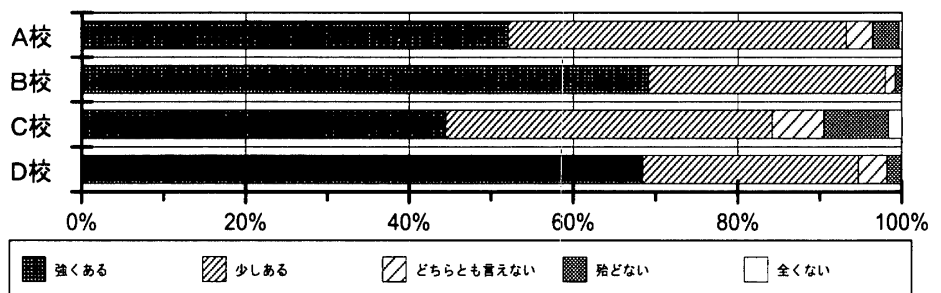


図11 保育実習が不安である

P<.001

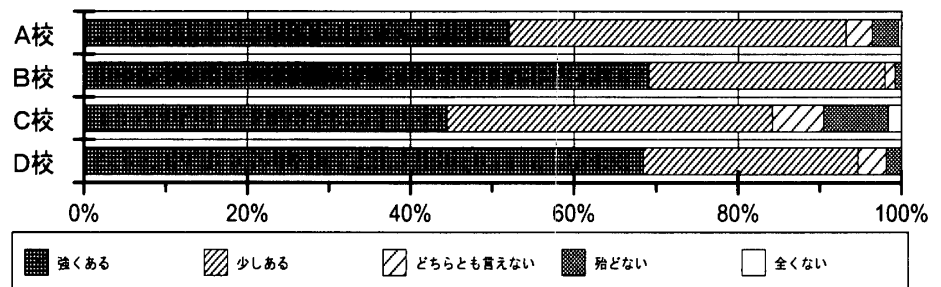


図12 保育実習をしたくない

P<.001

	実習楽しみ	うまくいく	実習したい	不安である	したくない
実習楽しみ	1.000	.460 **	.704 **	-.237**	-.558 **
うまくいく		1.000	.458 **	-.327 **	-.267 **
実習したい			1.000	-.314 **	-.589 **
不安である				1.000	.327 **
したくない					1.000

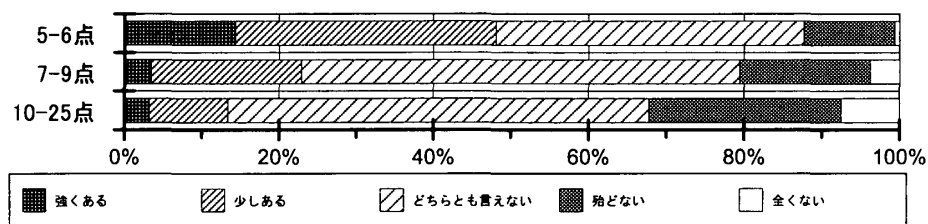
4 保育職への志気別で見た保育実習への気持ち

保育職への志気に関する項目を尺度化して、保育実習への不安との間の関連性を確かめた(項目番号 201~205, 信頼係数 $\alpha = .7466$)。数値が低いほど、志気が高いと判断する(数値の範囲は 5-25 点である)。

保育職への志気は、保育実習への気持ちに関する項目、全てと関連性があった。保育職に対して志気の高い学生は、実習がうまくいくと思い、楽しみで「実習をしたい」という気持ちを持つようになる、という推測も考えられる。

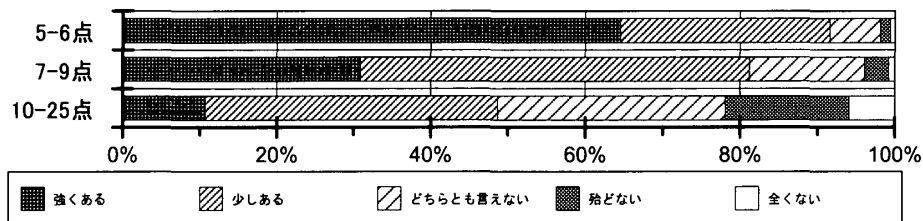
一方、保育職に対して志気の低い学生は、実習が「うまくいかないかもしれない」「不安だ」と思い、可能なら「実習をしたくない」という気持ちになる可能性もある。

保育職への志気が低い場合、「不安」には関わらず、「保育実習をしたくない」と思うことは予想される。従って、必ずしも「実習が不安だから、実習をしたくない」とは言えない。但し、「不安」と「したくない」の間に相関関係にあることから、「したくない」と言う気持ちが、より一層、不安を増大させるのか、又は、不安だから「実習をしたくない」という気持ちになるのか、どちらの可能性も考えられる。



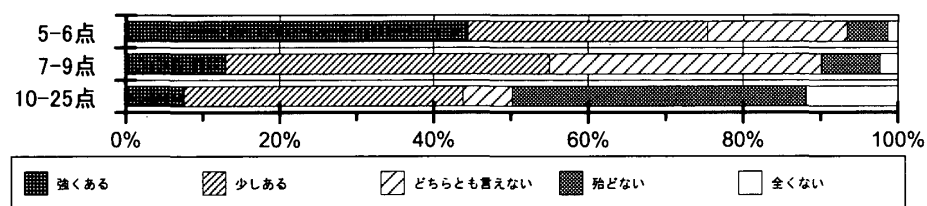
P<.001

図 13 保育実習がうまくいく



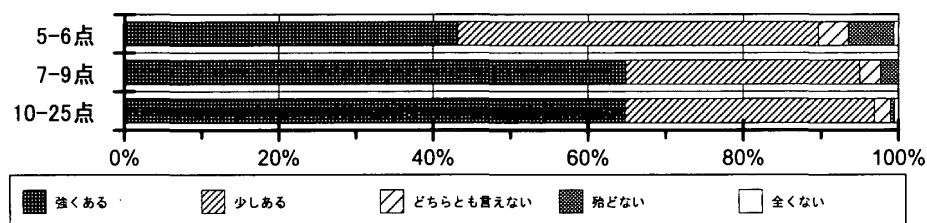
P<.001

図 14 保育実習が楽しみ



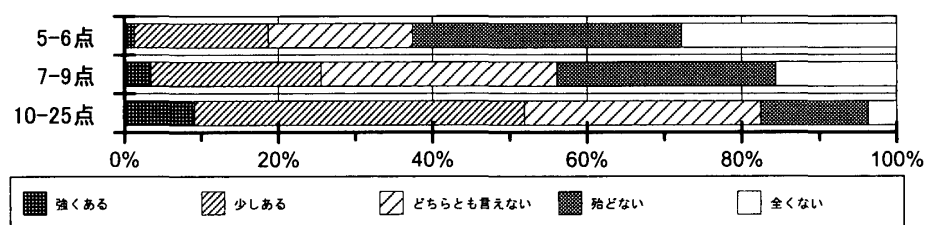
P<.001

図 15 保育実習がしたい



P<.001

図 16 保育実習が不安である



P<.001

図 17 保育実習をしたくない

5 子どもの反応イメージ別で見た保育実習への不安の状況

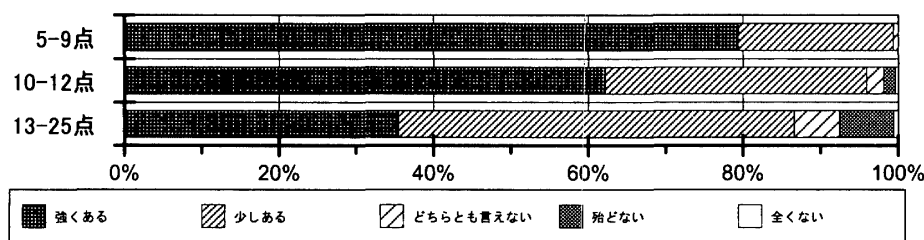
保育実習での子どもの反応に対するイメージに関する項目を尺度化して、保育実習への不安との間の関連性を確かめた（項目番号 306～310、信頼係数 $\alpha = .8742$ ）。

数値が低いほど、「子どもの反応に対するイメージがマイナスである」或いは「自信がない」と判断する（数値の範囲は5-25点である）。例えば、「私は子どもの考えていることが分からないかもしれない。そのために、子どもは、私の言葉掛けに反応してくれなかったり反発したりするかもしれない」など。

保育実習での子どもの反応に対するイメージは、保育実習への気持ちに関する項目、全てと関連性があった。

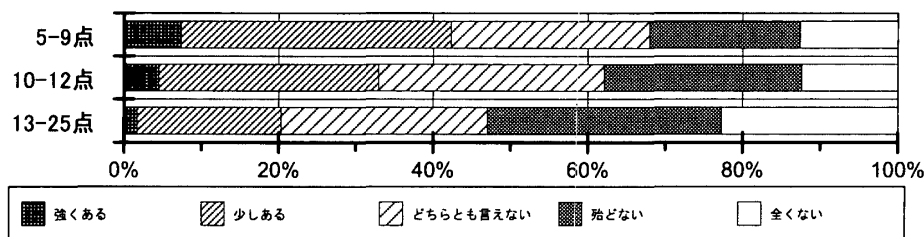
実習で「子どもが言うことを聞いてくれない」や「子どもの反応が少ない」「遊んでくれない」など、子どもの反応に不安を持っている学生ほど、保育実習が不安であり、保育実習をしたくないという気持ちが強い。

一方、保育実習での子どもの反応に対する不安を「殆どない」或いは「全くない」と感じている学生ほど、実習が楽しみで、うまくいくと思っている。そして「実習がしたい」と言う気持ちが強い。



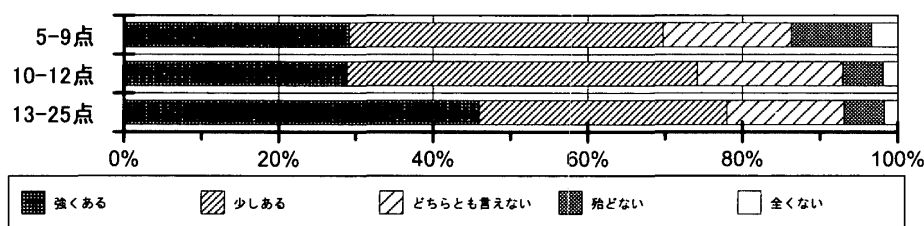
P<.001

図 18 保育実習が不安である



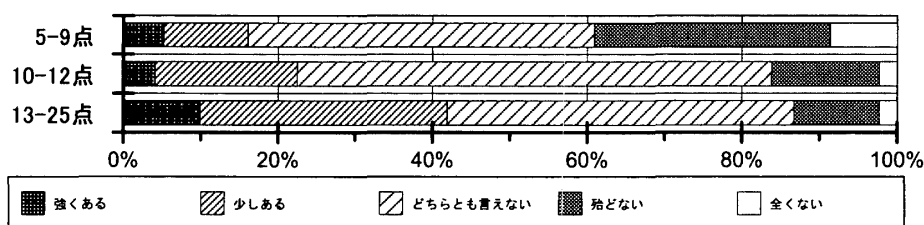
P<.01

図 19 保育実習をしたくない



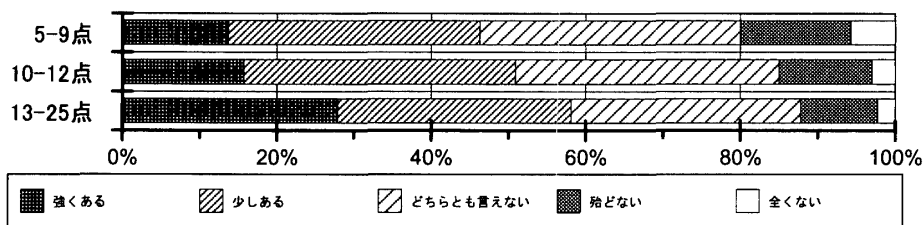
P<.01

図 20 保育実習が楽しみ



P<.001

図 21 保育実習がうまくいく



P<.05

図 22 保育実習をしたい

6 保育技術の不安別で見た保育実習への不安の状況

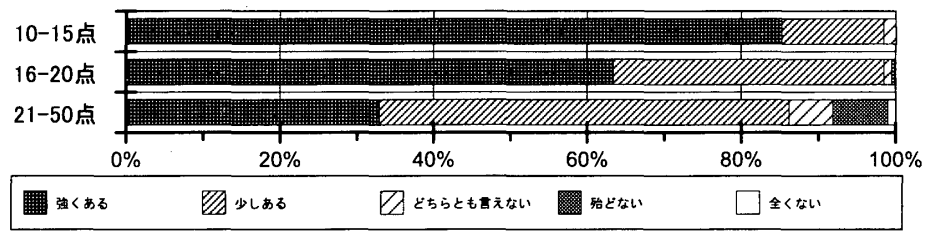
保育技術への不安に関する項目を尺度化して、保育実習への不安との間の関連性を確かめた（項目番号 401～410, 信頼係数 $\alpha = .8598$ ）。数値が低いほど、「保育技術への不安が強い」と判断する（数値の範囲は 10-50 点である）。

保育実習において、活動が予想される保育技術への不安は、保育実習への気持ちに関する項目、全てと関連性があった。

「ピアノや造形」「手遊びや紙芝居」への不安、或いは「先生との接し方」「保護者との接し方」への不安を持っている学生ほど、保育実習、全体が不安であり、保育実習をしたくないという気持ちがある。

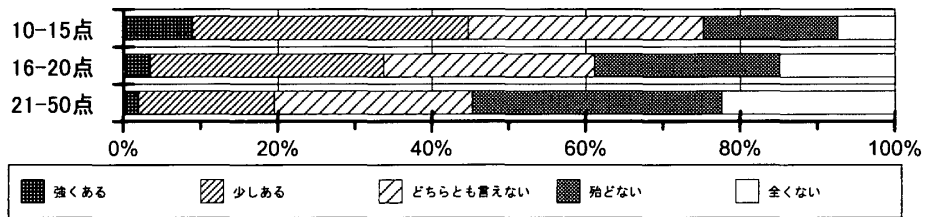
一方、保育実習での保育技術に関する不安が「殆どない」或いは「全くない」と感じている学生ほど、実習が楽しみで、うまくいくと思っている。そして「実習がしたい」と言う気持ちが強い。それぞれ

の保育技術に関する項目で、保育実習への不安と高い関連性のある項目（相関関係のあった）は、「実習先の先生との接し方への不安」($r = .463$)、「保護者との接し方への不安」($r = .435$)、「みんなの前で話すことへの不安」($r = .352$)、「子どものけんかへの対応への不安」($r = .350$)であった（表 2）。



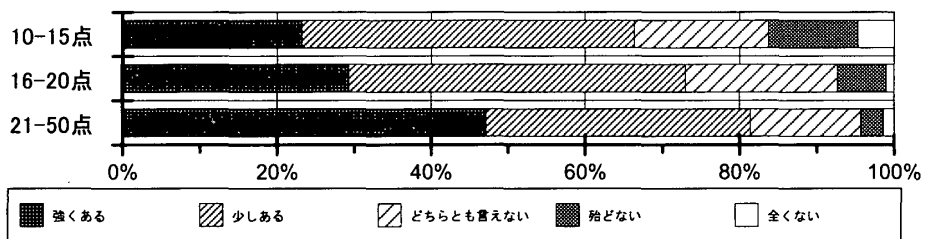
P<.001

図 23 保育実習が不安である



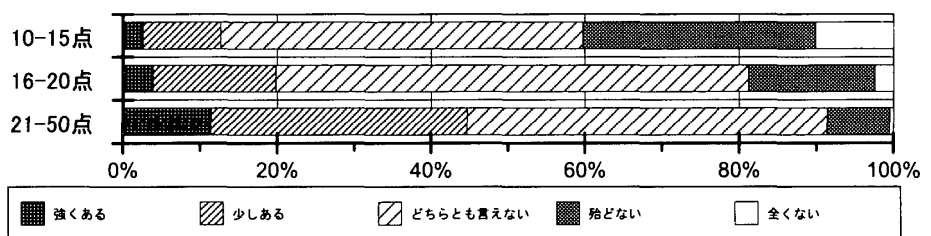
P<.001

図 24 保育実習をしたくない



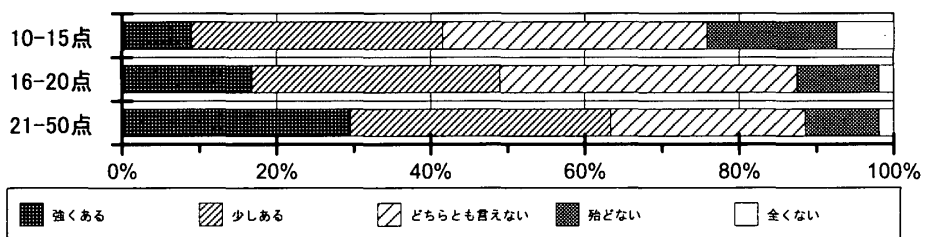
P<.001

図 25 保育実習が楽しみ



P<.001

図 26 保育実習がうまくいく



P<.001

図 27 保育実習をしたい

表2 保育技術の各項目と「保育実習への不安」の相関

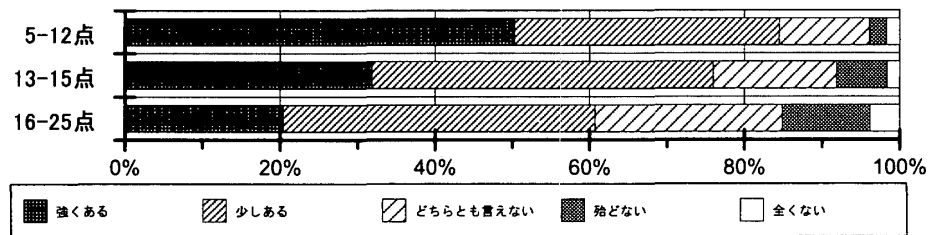
	実習不安	実習日誌	ピアノ等	手遊び等	教材作り	子に対応	子と遊ぶ	喧嘩対応	前で話す	先生対応	親と対応
実習不安	1.000	.298**	.251**	.321**	.329**	.329**	.332**	.350**	.352**	.463**	.435**
実習日誌		1.000	.328**	.286**	.311**	.245**	.185**	.191**	.269**	.329**	.283**
ピアノ等			1.000	.475**	.411**	.253**	.228**	.195**	.303**	.285**	.225**
手遊び等				1.00	.521**	.423**	.379**	.352**	.514**	.426**	.371**
教材作り					1.000	.404**	.242**	.307**	.413**	.336**	.388**
子に対応						1.000	.608**	.526**	.434**	.398**	.478**
子と遊ぶ							1.000	.527**	.495**	.404**	.410**
喧嘩対応								1.000	.451**	.422**	.475**
前で話す									1.000	.529**	.489**
先生対応										1.000	.699**
親と対応											1.000

**：P<.01

7 保育の学習イメージ別で見た保育実習への不安の状況

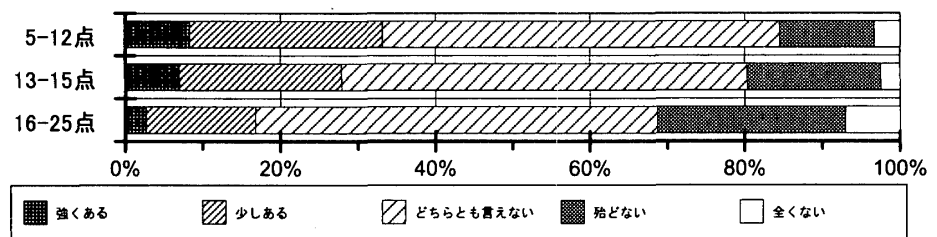
保育の学習に関する項目を尺度化して、保育実習への不安との間の関連性を確かめた(項目番号206~210, 信頼係数 $\alpha=.6891$)。数値が低いほど、「保育の学習イメージがプラスである」と判断する(数値の範囲は5-25点である)。なお、項目番号208~210は評価が「プラス」となるように再コード化した。

保育に関する学習のイメージは、保育実習への気持ちに関する項目、全てと関連性があった。保育の学習が「楽しい」、保育の授業に「満足している」など、保育の学習にプラスのイメージのある学生は、



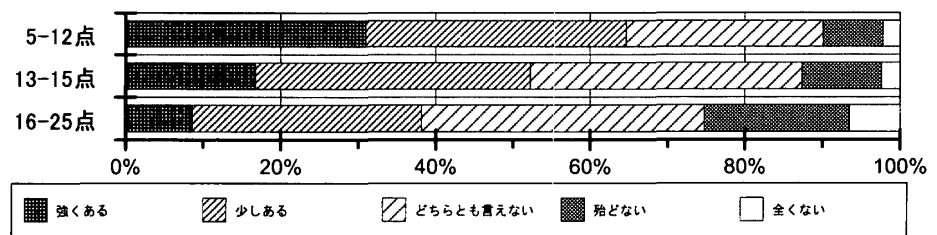
P<.001

図28 保育実習が楽しい



P<.01

図29 保育実習がうまくいく



P<.001

図30 保育実習をしたい

実習が楽しみで、うまくいくと思い、「実習をしたい」という気持ちを「強く」持つ割合が高い。

一方、「保育の学習にのびがないと感じる」「保育の勉強が煩わしい」など、保育の学習にマイナスのイメージを持つ学生は、実習が「うまくいかないかもしれない」「実習が不安だ」という気持ちを持つ割合が高い。

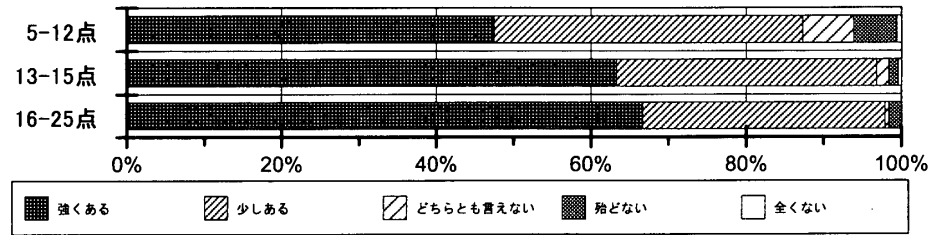


図 31 保育実習が不安である

P<.001

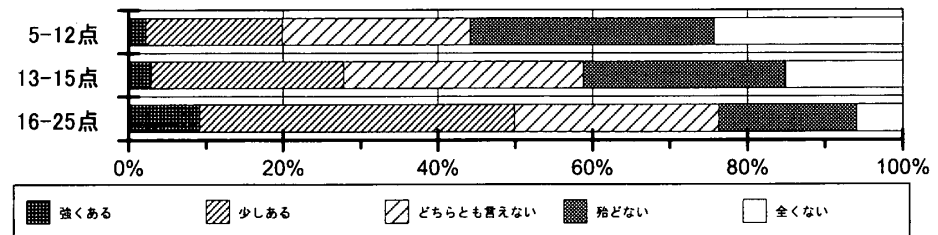


図 32 保育実習をしたくない

P<.001

何らかの背景や要因で「保育実習をしたくない」と思っているから、保育の学習が楽しくなく、授業にも満足していない、とも考えられる。しかし、因果論的な視点からは、「保育に関する知識不足や技術不足の自覚」「自信喪失」「保育実習への不安」の流れで捉えた方が妥当であろう。

なお、「保育実習への不安」と「情緒的支援ネットワーク」「無力体験」「問題対処行動」「ストレス症状」との関連性、及び「保育実習への不安」の背景要因については、別の機会に報告したい。

IV おわりに

本研究では、指定保育士養成施設に在学する学生を対象に、保育実習前における不安の状況を探った。今回の調査から以下のことが分かった。

1) 保育実習への不安の状況

「保育実習が楽しみ」と思っている学生が約7割、「保育実習に早く行きたい」は約5割を超える。一方、「保育実習が不安である」という気持ちを持つ学生が「強くある」と「少しある」を合わせると9割を超える。

2) 子どもと保育に対するイメージ

「子どもが可愛いと思う」や「子どもの世話をするのが好き」など、子どもや保育に対して良いイメージを持っている。一方、「言うことを聞いてくれないかもしれない」「指導に反発するかもしれない」など、子どもの反応に不安を感じている（「少し思う」を含めると約6～8割）。

3) 保育実習で予想される実習内容への不安

強く不安を感じている実習内容は、「教材づくりや指導計画作成」「実習日誌を書くこと」「ピアノや造形の技術」「保護者との接し方」「実習先の先生との接し方」で半数を超えた。一方、「子どもと一緒に遊ぶこと」にはそれほど不安を感じていなかった。

4) 保育実習への不安と関連性のある項目

保育実習への不安と「保育職に対する志気」「保育の学習イメージ」「子どもの反応イメージ」「保育技術の不安」の間に関連性が見られた。「保育の仕事にやりがいを感じる」「保育の仕事は社会に役立っている」など、保育職に対する志気が高い場合、また、「保育について学ぶのが楽しい」「保育の授業に満足している」など、保育の学習イメージがプラスである場合、保育実習への不安が少ない。

一方、「言うことを聞いてくれないかもしれない」「指導に反発するかもしれない」など、子どもの反応にマイナスイメージを持つ場合、また、「教材づくりや指導計画作成」「実習日誌を書くこと」「ピアノや造形の技術」などの保育技術に不安がある場合、保育実習への不安が高くなる。

学生が保育実習に対して不安を感じる背景は複雑であり、様々な要因が絡み合っているものと思われる。今回の調査では重回帰分析など因果分析を行っていないので不安の背景や因果関係は明らかにできなかった。しかし、保育実習への不安が「保育職に対する志気」や「保育の学習イメージ」と関連性があることから、日頃の授業の中で、保育職の意義や社会における役割について強調することが重要であろう。また、保育の授業に「楽しみ」や「満足」の得られるような創意工夫をしていく必要がある。このことは、実習内容として保育技術への自信ともつながる。さらに、学生が養成校教職員との間で「苛立ち事」を感じている状況、或いは、養成校教職員からの「支持や応援が殆どない」と感じている状況を改善していく必要がある。

参考文献

- 1) 岸井勇雄他編：教育・保育実習，Pp 10-12，チャイルド社，2000.
- 2) 音山若穂・今泉礼右：児童福祉施設実習生の心理的ストレス反応の変化と自己評価，刺激事態の検討，Pp 15-27，保育士養成研究，2002.
- 3) 音山若穂：児童福祉施設実習生の実習ストレスと緩衝要因およびストレス・プロセスと自己評価の関連，Pp 9-23，保育士養成研究，2003.
- 4) 桂 戴作：あなたの中の怖いストレス，Pp 84-86，青春出版社，1983.
- 5) 村田 務：保育者のストレス状況とその原因，白梅学園短期大学紀要 第32号，Pp 135-147，1996.

保育実習に対する不安とその背景に関する調査

1 最初にあなた自身のことについてお尋ねします。

101	性別は何ですか	1 女性 2 男性
102	年齢は何歳ですか	満 () 歳 () ヶ月
103	アルバイトは週に合計何時間くらいしていますか	約 () 時間
104	住居形態について教えてください	1 自宅 2 アパート 3 寮 4 その他

2 保育職への志気尺度：保育職について、日頃、次のように感じたり思ったりすることがありますか

201	保育の仕事にやりがいを感じる	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
202	保育の仕事が社会に役立っていると思う	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
203	保育の仕事をするのが楽しみだと思う	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
204	自分にとって保育職は適していると思う	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
205	将来、保育職に就こうと思う	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
206	保育について学ぶのが楽しいと思う	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
207	保育の授業に満足していると思う	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
208	保育の学習に伸びがないと感じる	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
209	保育の学習に負担を感じる	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
210	保育に関する勉強が煩 ^{わづら} わしいと思う	1 よくある 2 時々ある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない

3 子どもへのイメージ尺度：次のような、子どもへの気持ちや思いはどのくらいありますか

301	子どもが可愛い	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
302	子どもと遊ぶが好き	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
303	子どもと接するのが楽しい	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
304	子どもの世話をするのが好き	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
305	子どもの笑顔がすき	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
306	言うことを聞いてくれないかもしれない	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
307	私と遊んでくれないかもしれない	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
308	私の指導に反発するかもしれない	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
309	子どもの反応が少ないかもしれない	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない
310	子どもの考えがわからないかもしれない	1 強く思う 2 少し思う 3 どちらでもない 4 殆ど思わない 5 全く思わない

4 保育技術に対する不安尺度：保育所実習において、次のことに不安を感じることがありますか

401	実習日誌を書くことへの不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
402	ピアノや造形の技術への不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
403	手遊びや紙芝居への不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
404	教材づくりや指導計画作成への不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
405	一人一人の子どもへの接し方への不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
406	子どもと一緒に遊ぶことへの不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
407	子どものけんかへの対応への不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
408	みんなの前で話すことへの不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
409	実習先の先生との接し方への不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
410	保護者との接し方への不安	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない

5 保育職に対する支持尺度：将来、保育職に就くことについて、次の人から支持されていますか

501	友人からの支持や応援	1 強くある 2 少しある 3 殆どない
502	恋人の支持や応援	1 強くある 2 少しある 3 殆どない
503	先輩、後輩の支持や応援	1 強くある 2 少しある 3 殆どない
504	親の支持や応援	1 強くある 2 少しある 3 殆どない
505	兄弟の支持や応援	1 強くある 2 少しある 3 殆どない
506	その他の家族の支持や応援	1 強くある 2 少しある 3 殆どない
507	大学、学校の教員、職員の支持や応援	1 強くある 2 少しある 3 殆どない
508	バイト先の人の支持や応援	1 強くある 2 少しある 3 殆どない

6 人間関係尺度：あなたは次のような人との間で、^{いらいだ}苛立ったり不快な思いをしたことがありますか

601	友人	1 よくあった 2 時々あった 3 殆どなかった
602	恋人	1 よくあった 2 時々あった 3 殆どなかった
603	先輩、後輩	1 よくあった 2 時々あった 3 殆どなかった
604	親	1 よくあった 2 時々あった 3 殆どなかった
605	兄弟	1 よくあった 2 時々あった 3 殆どなかった
606	その他の家族	1 よくあった 2 時々あった 3 殆どなかった
607	大学、学校の教員、職員	1 よくあった 2 時々あった 3 殆どなかった
608	バイト先の人	1 よくあった 2 時々あった 3 殆どなかった

7 情緒的支援者保有尺度：あなたの周りには次のような人がいますか

701	会うと心が落ち着き安心できる人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
702	あなたの気持ちを敏感に察してくれる人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
703	あなたの大学での学びを評価し認めてくれる人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
704	あなたを信じてあなたの思うようにさせてくれる人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
705	あなたの成長や成功を我がことのように喜んでくれる人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
706	個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
707	お互いの考えや将来のことを話し合える人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
708	気兼ねしないで甘えられる人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
709	あなたの行動や考えに賛同し指示してくれる人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない
710	気持ちの通じ合える人	1 たくさんいる 2 少しいる 3 殆どいない

8 無力体験尺度：あなたは、次のような体験がありましたか

801	難しい問題に直面したが、それなりに解決できた	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
802	不愉快な出来事があって、何の対応もできなかった	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
803	自分ではどうすることもできない事態に出くわした	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
804	どんなにがんばってもやりたいことができなかった	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった

9 問題対処行動尺度：困難な問題に直面したとき、次のような行動がどのくらいありましたか

901	信頼できる人に相談する	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
902	人に話して自分の気持ちを分かってもらう	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
903	物事の明るい面を見つけようとする	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
904	状況への見方や考え方を変えてみる	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
905	趣味や運動で気分転換をする	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
906	本を読んだり人に聞いて解決策を見つける	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
907	問題に関わった人に腹を立てる	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
908	恋人や家族に愛情や優しさを求める	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
909	酒を飲んだり買い物をしてうさ晴らしをする	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
910	じっと耐え我慢して時の過ぎるのを待つ	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった

10 ストレス症状尺度：最近一ヶ月の間で、次のようなこと感じたことがありますか。

1001	頭がすっきりしない、頭が重い	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1002	目がよく疲れる	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1003	ときどき鼻づまりすることがある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1004	めまいを感じることもある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1005	立ちくらみすることがある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1006	耳鳴りがすることがある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1007	口の中があれたり、ただれたりすることがある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1008	のどが痛くなることが多い	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1009	舌が白くなっていることが多い	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1010	好きなものでもあまり食べる気がしない	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1011	胃がもたれるような気がする	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1012	胃がはったり、下痢や便秘をすることがある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1013	肩がこりやすい	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1014	背中や腰が痛くなることがよくある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1015	なかなか疲れがとれない	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1016	このごろ体重が減った	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1017	何かするとすぐに疲れる	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1018	朝、気持ちよく起きられないことがよくある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1019	大学での学習にやる気がでない	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1020	寝付きが悪い、なかなか寝付けない	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1021	夢を見ることが多い	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1022	深夜に目が覚めてしまう	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1023	急に息苦しくなることがよくある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1024	ときどき動悸が激しくなる	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1025	胸が痛くなることがある	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1026	よく風邪をひき、風邪が治りにくい	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1027	小さなことにでも腹が立ちやすい	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1028	手足が冷たいことが多い	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1029	手のひらや脇の下に汗をかいていることが多い	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった
1030	人と会うのがおっくうになっている	1 何度もあった 2 時々あった 3 殆どなかった

1 1 保育実習に対する気持ち：次のような気持ちはどのくらいありますか

1101	保育実習が楽しみと言う気持ち	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
1102	保育実習が不安と言う気持ち	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
1103	保育実習がうまくいくと言う気持ち	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
1104	早く保育実習をしたいと言う気持ち	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない
1105	保育実習をしたくないと言う気持ち	1 強くある 2 少しある 3 どちらとも言えない 4 殆どない 5 全くない